

クンドルニュース

Kyushu United Nations Depository Library

九州国連寄託図書館

今年もよろしく
お願いします！



中高生対象

「大学生と一緒にグローバルとSDGsについて考える
～Your Action for Your Future～」

イベントを開催しました！



日時：令和6年12月8日(日) 13時30分～17時
会場：福岡市総合図書館 第1会議室(3階)
主催：国連ハビタット福岡 日本国際連合協会福岡県本部
福岡市総合図書館(九州国連寄託図書館)



参加者：13名(中学生・高校生・大学生)

内容：

- ①「大学生のグローバル活動から学ぶ」大学生4グループの活動報告
- ②「ハビタット村の復興ワークショップ」
- ③中高生と大学生のグローバル交流会

当館での中学生・高校生と大学生のコラボイベントは平成27年の初開催から今回で10回目を迎えますが、今年も昨年に続き九州で唯一の国連機関「国連ハビタット福岡」の主導でのイベントとなりました！大学生から自身の活動について話を聞くこと、国連ハビタットの紹介やワークショップなどの交流を通じて、進学や進路のヒントを得てもらえればと継続して開催しています。

大学生の活動報告では、九州産業大学、西南学院大学、立命館アジア太平洋大学、九州大学の学生の皆さんから、写真や動画を交えて魅力ある発表をしていただきました。単なる活動報告に終始せず、世界の抱える問題に対する学生の皆さんの思いや、今後の関わり方など熱くいきいきと語っていただき参加の中高生も興味深く聞き入っていました。

3つのグループに分かれて行ったワークショップでは、各グループについてくれた大学生の主導のもとそれぞれが大雨で被災した架空の村「ハビタット村」の住民になりきり、被災後の村をどのように復興していくかについて話し合いました。自分のことだけでなく、周りの人々の立場や村全体の将来も考慮に入れながら、何を優先し対処していくのか、という決断は今後の人生においても直面するだろう問題です。学校や地域の枠を飛び出し、自らの意思で集った仲間と意見を出し合い、すり合わせて、まとめ、発表するという一連の流れを共有できたのは貴重な体験です。

また、大学生が中高校生を優しくサポートしていて、中高生が年の近い先輩と話し合う様子は、大人相手とは異なり、心を開き本音で接することができるように思えました。

グローバル・SDGsをキーワードに集った若者たちにとって今回の体験が今後の人生の糧となったはずです。将来に向けての希望や意欲が満ちた会場は、若者たちのエネルギーであふれていました！

国連ハビタット

正式名称は国際連合人間居住計画
(United Nations Human Settlements Programme)



人々が安心して快適に暮らせる「まちづくり」を推進する国連の専門機関として、1978年に設立。

九州にある唯一の国連機関、国連ハビタット福岡本部はアクロス福岡の8階に事務所があり、社会的・環境的に全ての人々が適切な住居を確保できるように目指しています。

12月8日のイベントでは、実際にどんな活動をしているのかクイズを交えて分かり易く紹介していただきました。

国連ハビタットが展開する安全で持続可能なごみ処理技術「福岡方式」は、世界が求める福岡市の廃棄物埋め立て技術として開発途上国の環境問題の解決に貢献しています。



清田太郎さん

今回のイベントで、優しく中高生に接しながらも、そのリーダーシップがとても頼もしかった清田さん！今後の活躍を期待します！

Q 簡単に自己紹介をお願いします

九州産業大学 国際文化学科3年の清田太郎です。大学では戦争と歴史をメインに勉強しながら、GLP(Global Leadership Program)のメンバーとして、海外で活躍する人となれるよう日々努力しています。

Q おススメの本はありますか？

マシュー・サイド著『失敗の科学』です。人は失敗することを恐れ、過剰に反応します。しかし、実はそこまで敏感になるほどではなく、失敗はむしろ改善案のヒントを与えてくれる良いものなのだ、この本は教えてくれます。失敗への恐怖心が和らぎ、人生が少し楽になるのでおすすめです。

Q 好きな言葉はありますか？

“Freedom is the right of all sentient beings. (自由は全ての生き物の権利だ。)”(『トランスフォーマー』より)至極真っ当ですが、現代社会においては非常に価値のある言葉です。今、ウクライナ侵攻や、ガザ地区での戦闘、宗教や風習、差別によって自由を制限されている人々が多くいます。SNS等でその瞬間を目にすると、自由がいかに大切なものを痛感させられます。その度にこの言葉が頭をよぎり、自分に何かできることはないか、そして人を尊重し、できるだけ理解しようと思わせてくれる言葉です。

Q 印象に残る海外での体験があれば教えてください

自分の渡航体験ではなく、日本での異文化交流の一例として、私が大学1年の後期にやってきたウクライナ女性の話をします。お互いアニメ好きということで仲良くなり、一緒に映画を見に行ったり、北九州で道に迷ったりして過ごす中で、たびたびロシアによる侵攻の話が出てきました。ここでは書けないような残酷な話から、彼女の複雑な心境まで様々な話がありました。その中でも、常に警報が鳴っている生活に慣れてしまったという話が印象に残っています。彼女の慣れてしまったものは私たちの想像以上に酷いことなのだ考えると、とても複雑な思いになります。なので、彼女と会う時は常に普通の瞬間を過ごすことを意識しています。このような時間をともにすることもまた異文化交流といえると思います。なにも大それたものである必要はありません。皆さんの周りにも複雑な状況にいる人がいたら、たまにそういう話をするぐらいにして、普通に過ごしてみるといつもと違った交流ができると思います。

Q 自己アピールをどうぞ！

海外に行ってみたり、いろんなバックグラウンドを持つ人と出会って、新しい目標を得たり、世論の見方が変わったりします。それがいい方向に行くか、悪い方向に行くかはあなた次第ですが、悪い方向に行ったとしてもそれは次に活かすためのいい失敗です。どんどんチャレンジしちゃいましょう！！

ご存知ですか？ 国際デー



2月10日

アラビアヒョウの
国際デー
International Day of
the Arabian Leopard

国連は、2023年6月の国連総会において、絶滅危惧種であるアラビアヒョウについての意識を高め、アラビアヒョウの保護と生息地を保全することを目的に、2月10日を「アラビアヒョウの国際デー」と宣言する決議(A/RES/77/295)を採択しました。

アラビアヒョウを野生生物保全が直面する課題を象徴する種として捉え、その保護を通して、他の野生生物や、私たち人間を含む地球全体の生態系の未来に目を向けていくことが求められています。



編集後記



今回紹介した中高生対象のイベント、若者同士の交流の場を提供できたことを嬉しく思うとともに、熱意をもった若者たちが、自分と世界の将来を真剣に考え、自信を持って夢をかなえていききっかけになればと切に願います。

そして、さらに良いイベントになるよう、次回に向けてスタートを切っています！

詳細をお知りになりたい方は、ぜひ2階国際・国連カウンターにお立ち寄りください！



九州国連寄託図書館

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3丁目7番1号 福岡市総合図書館 2階
TEL 092 (852) 0628

開館時間：10:00～20:00

10:00～19:00(日・祭日)

* 相談業務は 19:00(日・祭日 18:00)まで

休 み：毎週月曜・毎月月末

(休日のときはその翌平日)

年末年始・図書特別整理期間